

# 守山企業景況調査報告書

(第14回)

平成25年1月～平成25年3月期 実績

平成25年4月～平成25年6月期 見通し



# 守山企業景況調査について

(平成 25 年 1 月～平成 25 年 3 月期)

## 1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 71 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

## 2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	20	100.0%
製造業	13	12	92.3%
建設業	12	12	100.0%
サービス業	20	20	100.0%
卸売業	6	5	83.3%
合計	71	69	97.2%

## 3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 25 年 1 月～平成 25 年 3 月、見通しを平成 25 年 4 月～平成 25 年 6 月とし、調査時点は平成 25 年 4 月 30 日とした。

## 4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

## 調査の概要

平成 25 年 1 月～3 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」・「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」・「好転」等の企業割合と「減少」・「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 25 年 1 月～3 月期の調査結果では、業況と採算（経常利益）では大きな変化が見られないものの、売上高と資金繰りで変化があった。売上高は前回調査の▲22.4 から▲7.2 へ指数が上昇し、資金繰りも▲15.9 から▲4.9 と指数が上昇した。

### <業況>

業況 DI は▲20.9 と前回調査に比べて 1.8 ポイント上昇した。業種別では、小売業が 1.8 ポイント上昇の▲35.0、製造業は 40.9 ポイント下落の▲50.0、建設業が 33.3 ポイント上昇の 33.3、サービス業が 4.1 ポイント上昇の▲22.2、卸売業が 13.3 ポイント上昇の▲20.0 であった。製造業が大きく落ち込んだが他の業種は上昇であった。

4～6 月期の見通しは、全体で▲11.5 と 1～3 月期の実績から 9.4 ポイント上がっている。

### <売上高>

売上高 DI は▲7.2 となり前回調査より 15.2 ポイント上昇している。業種別では、小売業が▲30.0 と 20 ポイント上昇、製造業が▲25.0 と 2.3 ポイント上昇、建設業が 50.0 と 32.8 ポイント上昇、サービス業が▲15.0 と 11.3 ポイント上昇、卸売業が 20.0 と 3.3 ポイント上昇となっており、全業種で指数が上昇した。

4～6 月期の見通しは、▲10.3 と 3.1 ポイント下降している。小売業と製造業の指数は上昇見通しとなっているが、その他の建設業、サービス業、卸売業の指数は下降している。

### <採算（経常利益）>

採算（経常利益）DI は▲34.8 と前回調査に比べて 2.5 ポイント上昇している。業種別には、小売業が▲45.0 で 5 ポイント上昇、製造業が▲66.7 と 39.4 ポイント下降、建設業が 0.0 で 9.1 ポイント下降、サービス業が▲20.0 で 32.6 ポイント上昇、卸売業が▲60.0 で 10 ポイント下降であった。

4～6 月期見通しでは、全体で▲27.7 と 1～3 月期の実績に比べて 7.1 ポイント上昇となっている。製造業と卸売業が上昇見通しでその他の小売業、建設業、サービス業は下降見通しとなっている。

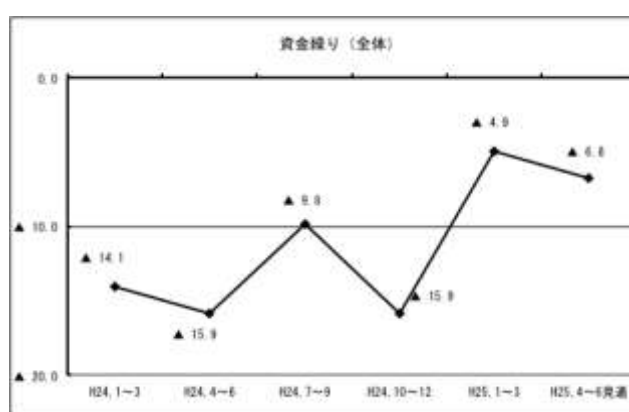
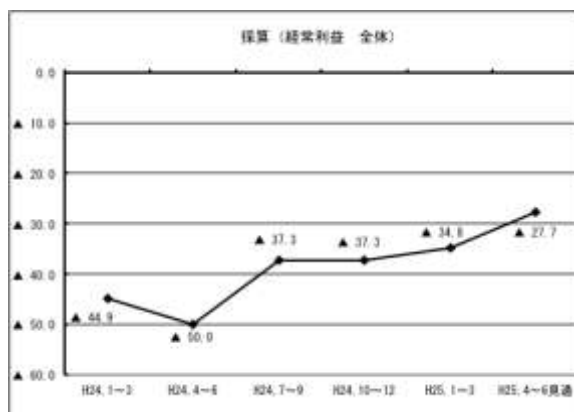
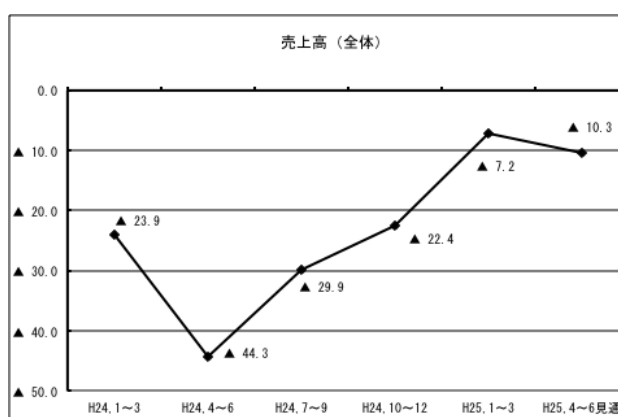
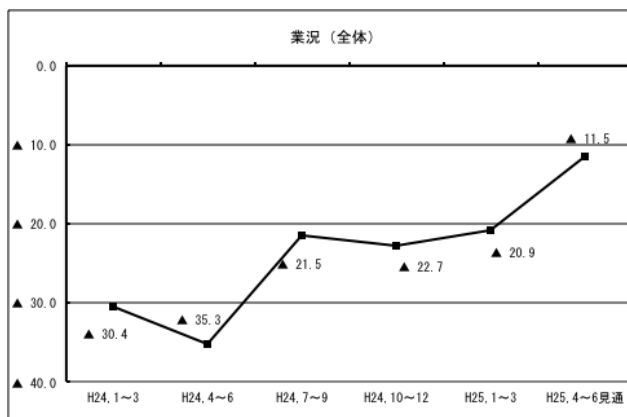
### <資金繰り>

資金繰り DI は▲4.9 と前回調査に比べて 11 ポイント上昇している。業種別では、小売業が 41.5 ポイント上昇の▲5.9、製造業が 10 ポイント上昇の 0.0、建設業が横ばいで 0.0、サービス業が 11.5 ポイント下降の▲5.9、卸売業が 3.3 ポイント下降の▲20.0 となった。

4～6月期見通しでは、▲6.8と1～3月期の実績に比べて1.9ポイント下降となっている。製造業と卸売業の指数は上向くものの、その他の小売業、建設業、サービス業の指数は下降となっている。

### <その他の意見>

- ・円安で原材料の値上げがあるがその分を商品価格に乗せられていない。今後の課題になりそうである。
- ・材料仕入れ単価が上昇し、このまま消費税が上がれば・・・と危機感を感じる。TPP参加で少しでも材料が下ってくればよいのだが。
- ・4月からの電気料金の値上げが痛い。
- ・円安により原料の高騰、利益の圧迫がある。
- ・2月3月が思ったより悪化した。原因として、住宅関連では大工等の人材不足がある。
- ・駆け込み需要も人材不足と相殺されて特に関西以西では期待できない模様。
- ・中小の製造業はまだまだ厳しさが続きそう。
- ・円安で仕入れコストが上昇していますが、販売価格を値上げできずに困っています。
- ・作られた景気はいずれ破綻する。堅実な政治、経済の運営をして欲しいと思う。
- ・人材不足というか、日本人の質の低下（老化）が著しい。
- ・これからの30年は、少子高齢化、環境エネルギー、グローバルがキーワードと耳にしましたので、日本がTPP参加をした後の戦略施策が非常に重要になってくると思います。
- ・円安により仕入れコストが上がり商品単価を引き上げることになり困っている。



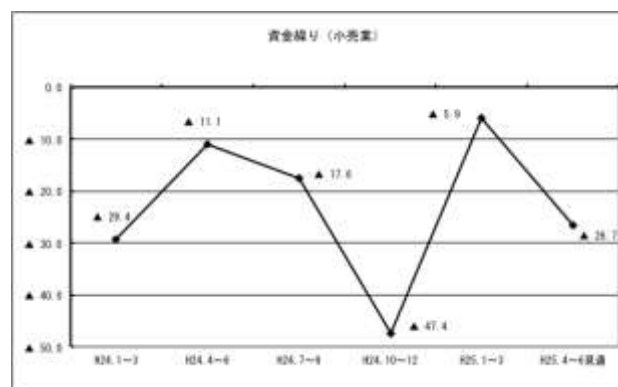
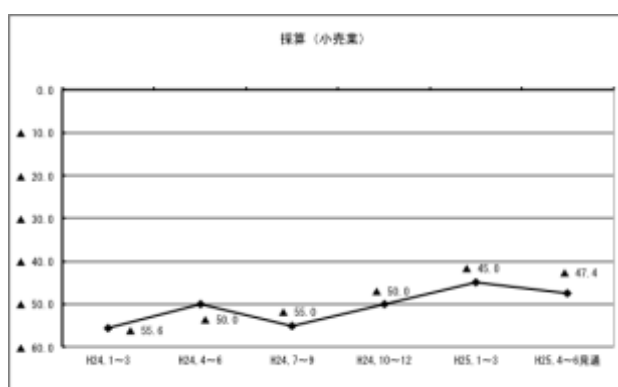
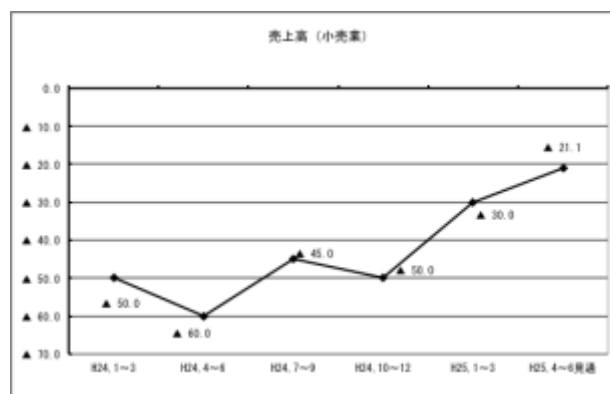
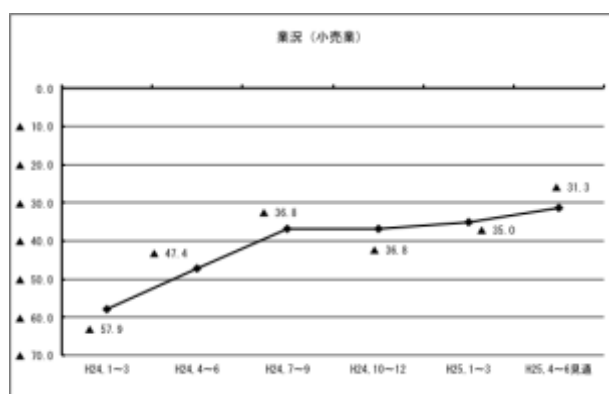
## 小売業

小売業の業況DIは▲35.0と前回調査より1.8ポイント上昇した。1年前の平成24年1～3月期からすると22.9ポイント上昇である。この1年間では業況指数が下降に転じることがなかった。4～6月期見通しも▲31.3と上昇を予想しており、着実にプラスに向かいつつあるようである。

売上高DIは▲30.0と前回調査より20ポイント上昇した。1年間でも20ポイント上昇であるが、この1年間は上昇、下降を繰り返しながら右肩上がりにあるようである。4～6月期見通しではさらに指数が改善して▲21.1であるので、この先に本格的な回復の期待があるように見える。

採算（経常利益）DIは▲45.0と前回調査より5ポイント上昇した。1年間では10.6ポイント上昇である。平成24年10～12月期から2期連続の上昇であるが、指数そのものの値が低いのが気かりである。4～6月期見通しは▲47.4と1～3月期の実績より下っており、採算性の回復は見通しが見えていない。

資金繰りDIは▲5.9と前回調査から41.5ポイント上昇した。1年間では23.5ポイント上昇である。前回調査の指数がこの1年間では特に低い結果であったので、短期的に急激に悪化する特殊な要因があったのかもしれない。4～6月期見通しは▲26.7と指数が悪化しているが、前回調査ほどではないので、この点だけを取り上げて資金繰りが悪化しているとも言い切れない。



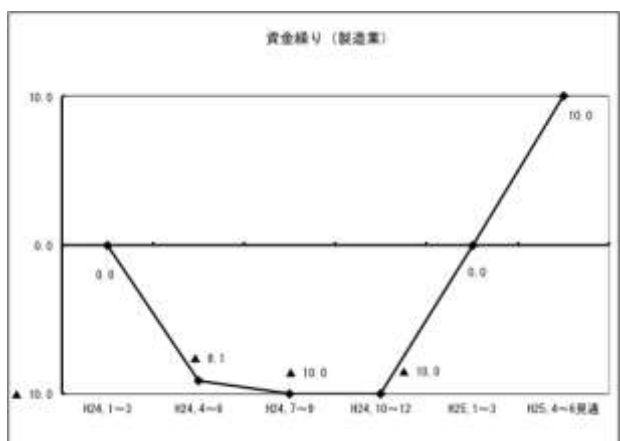
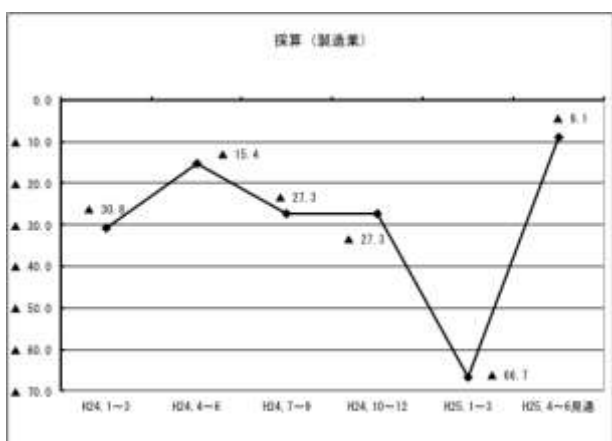
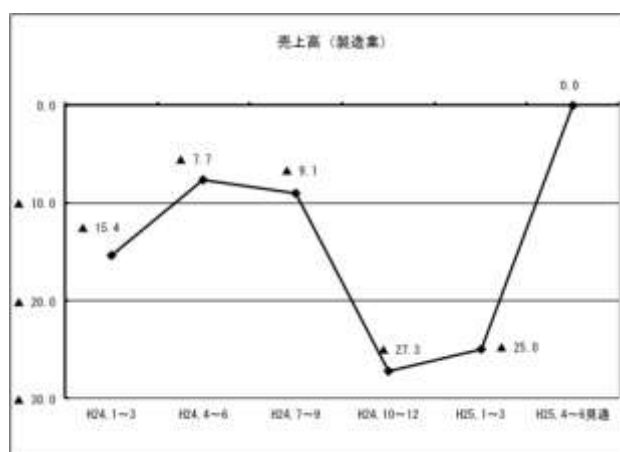
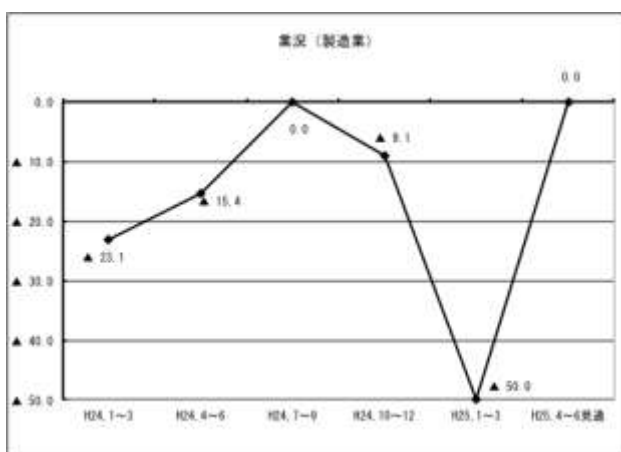
## 製造業

製造業の業況DIは▲50.0と前回調査に比べて41.9ポイント下降した。過去1年間では見られない大幅な落ち込みである。前回調査と2期連続での指数の悪化である。原材料仕入れ単価と原材料在庫数量が上昇していることに加えて引合いや受注残等の減少が業況判断に悪影響を及ぼしたものと見ることができる。4～6月期見通しは0.0と一気に回復するとなっており、1～3月期が特に悪かったと見るべきかもしれない。

売上高DIは▲25.0と前回調査より2.3ポイント上昇しているものの、大きな変化ではない。1年前の調査に比べても9.6ポイント数値が低い。しかし、4～6月期見通しでは0.0となっており、売上高の面でも一気に回復が見込まれている。

採算（経常利益）DIは▲66.7と過去1年間で最低となった。前回調査と比べても39.4ポイントの下落である。業況DIに影響を与えたであろう原材料単価と数量の上昇がここにも影響を与えていると考えられる。4～6月期の見通しでは▲9.1とこれも急回復となっており、1～3月期は1つの節目であるのかもしれない。

資金繰りDIは0.0と前回調査と比べると10ポイント上昇した。1年前と同じ指数である。過去1年間は資金繰りが若干わるかったのであろうか。4～6月期見通しでは10.0とプラス領域に指数が来ているので資金繰りも回復を見せそうである。



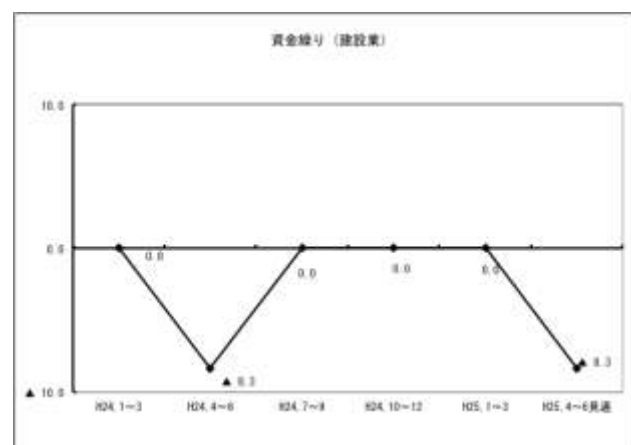
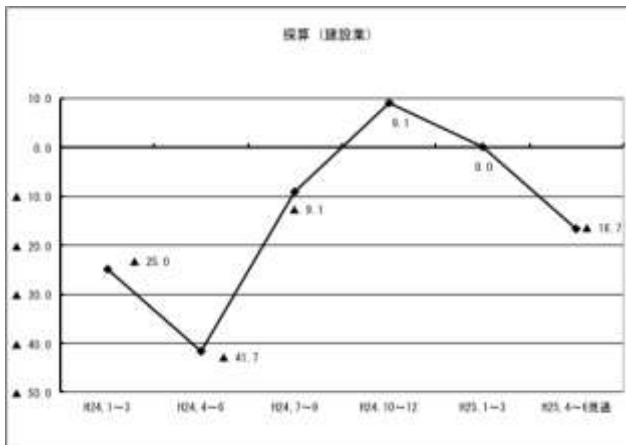
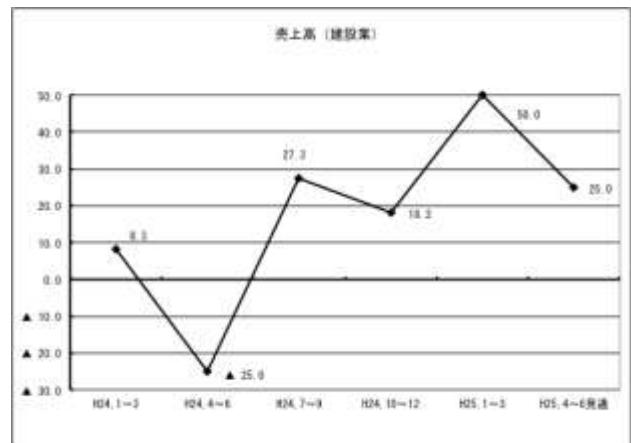
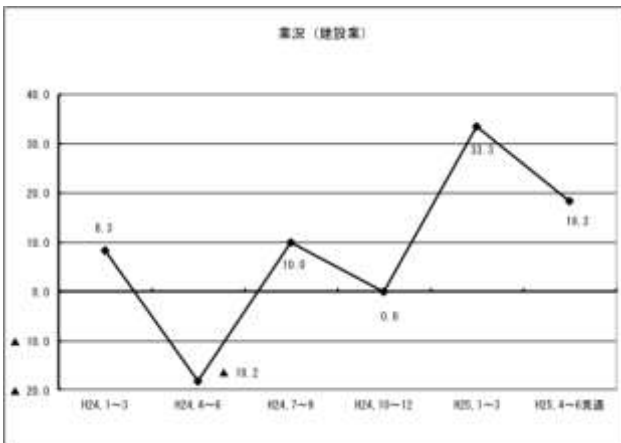
## 建設業

建設業の業況DIは33.3となり前回調査よりも33.3ポイント上昇した。1年前と比べても25ポイント上昇である。この1年を見ると上下しながらもはっきりと右肩上がりにあることが見て取れる。4～6月期見通しも18.2と1～3月期の実績を下回るものの過去1年に比べて高い指数である。

売上高DIは50.0となり前回調査より31.8ポイント上昇した。1年前と比較でも41.7ポイント上昇しておりこの1年で大きく回復したようである。4～6月期見通しは25.0で25ポイントとマイナス幅が大きいが平成24年4～6月期の▲25.0と比べると50ポイント高い。

採算（経常利益）DIは0.0と前回調査に比べると9.1ポイント下降であった。1年前の▲25.0と比較すると25ポイントの上昇であるが、前回調査まで2期連続して指数の上昇が見られたのに対して今回調査では下降している。業況や売上高の推移と採算の推移は別の動きをしているようである。4～6月期見通しも▲16.7となっており、採算性は悪い方向を向いているようである。

資金繰りDIは0.0と前回調査と同じであった。1年前も0.0であり、指数の大きな動きは資金繰りに関しては見られない。4～6月期見通しも▲8.3で過去1年間0.0と▲8.3の間を行き来しているのと同じ動きである。





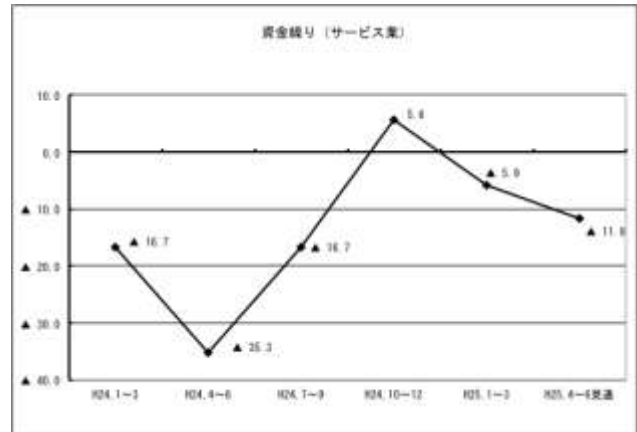
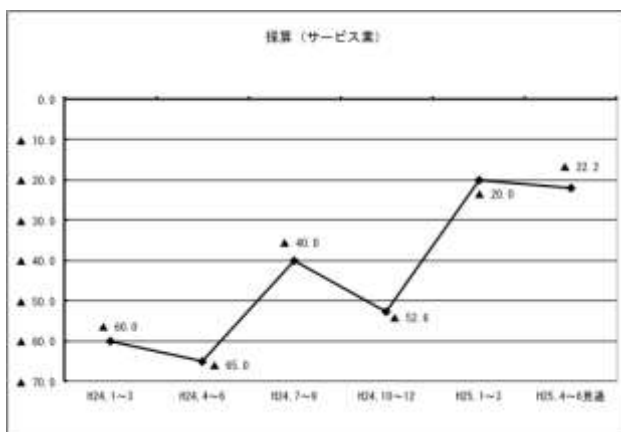
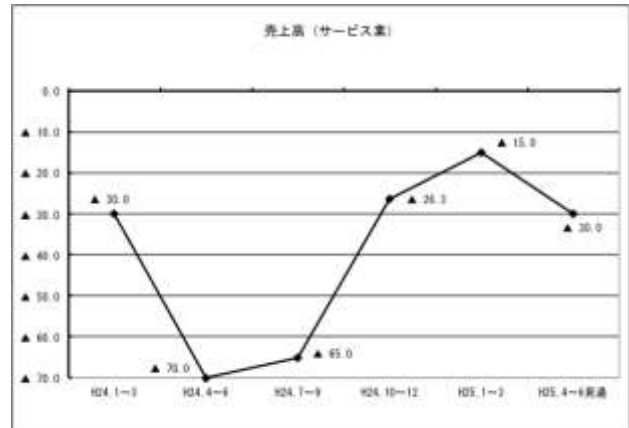
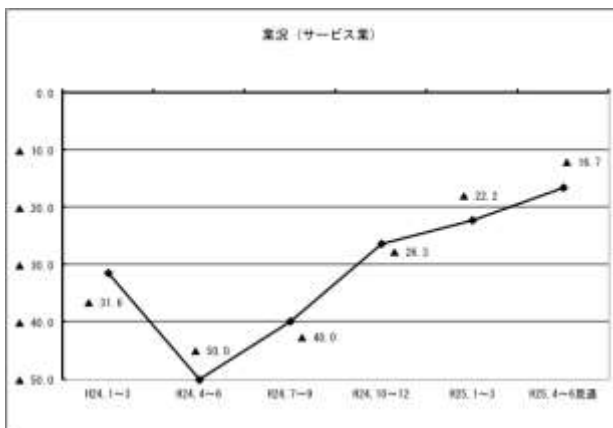
## サービス業

サービス業の業況DIは▲22.2と前回調査より4.1ポイント上昇した。これで3期連続の上昇である。4～6月期見通しも▲16.7と今回調査実績より高い指数となっているので、サービス業の業況ははっきりと右肩上がりになっている。

売上高DIは▲15.0で前回調査より11.3ポイント上昇した。売上高も業況と同じく3期連続の指数上昇である。売上高は平成24年4～6月期に▲70.0と非常に悪い指数であったのが3四半期で大きく改善したことになる。4～6月期見通しでは▲30.0と15ポイント下降であり、回復基調が転じてしまうのか気がかりである。

採算（経常利益）DIは▲20.0と前回調査より32.6ポイント上昇した。1年前と比較すると40ポイントの上昇である。1年間の傾向からすると、指数は上下するものの上昇カーブを描いている。4～6月期見通しでは▲22.2と今回調査実績よりも2.2マイナスであるが、過去1年のカーブからすると軽微な下落である。

資金繰りDIは▲5.9と前回調査より11.5ポイント下降であった。前回調査でプラス指数になったものの今回調査ではマイナス指数となっており、4～6月期見通しも▲11.8と徐々にマイナス幅が広がっていく傾向になりそうである。



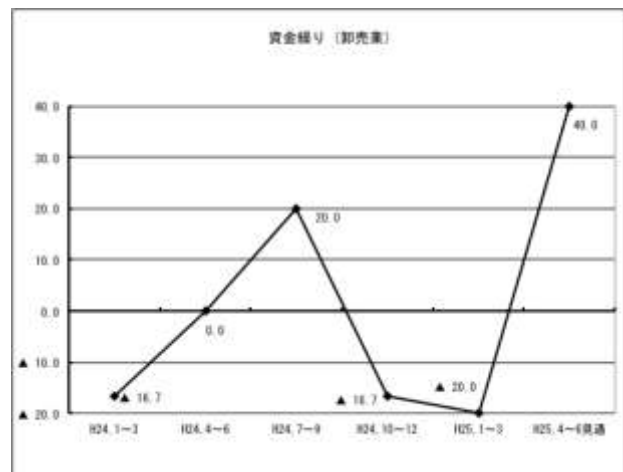
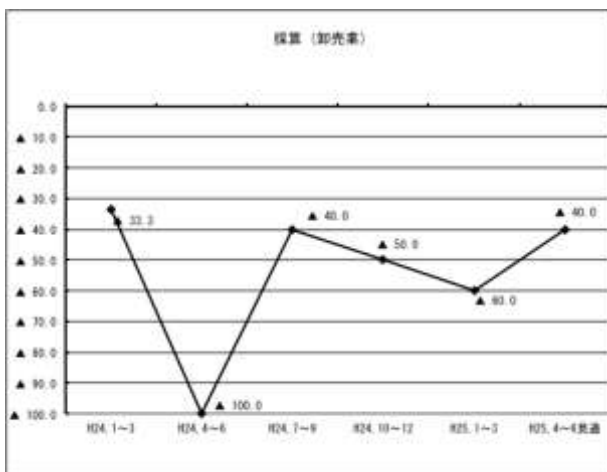
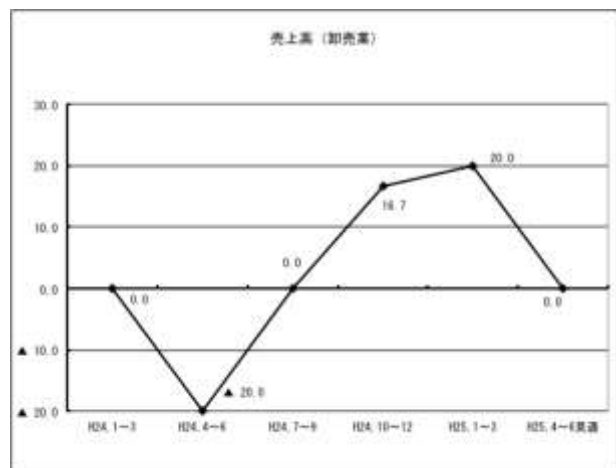
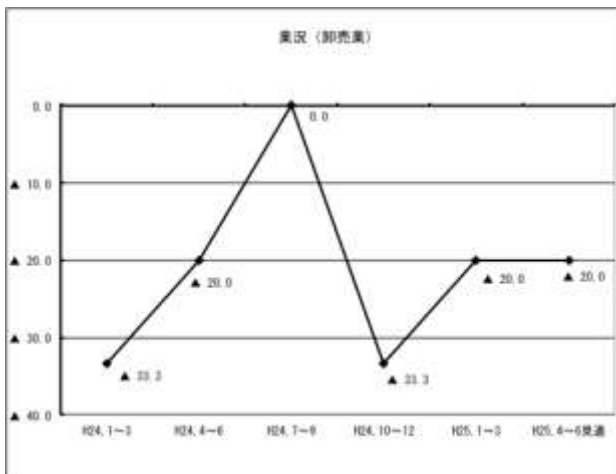
## 卸売業

卸売業の業況DIは▲20.0と前回調査より13.3ポイント上昇した。1年前と比べると13.3ポイントの上昇であるが、1年間で▲33.3が2回、▲20.0も2回出現しており、回復というより従来の動きの範囲内での上昇と見ることができる。4～6月期見通しも▲20.0であり、指数が変化していない。

売上高DIは20.0と前回調査より3.3ポイント上昇である。これで3期連続の指数上昇となり、平成24年4～6月期の▲20.0を底に一気にプラス20まで回復している。しかし、4～6月期見通しが0.0と反転しているため、この先に不安が残る結果となっている。

採算（経常利益）DIは▲60.0となった。前回調査より10ポイント下落である。採算（経常利益）の指数は他の業種に比べても低い値が4期連続で続いており、卸売業の採算性の低さが危惧される。4～6月期見通しは▲40.0と20ポイント上昇であるが、とても高い指数とは言えない。

資金繰りDIは▲20.0と前回調査より3.3ポイント下降した。過去から資金繰りの指数は上下する傾向があるので、今回もその範囲内での動きと見ることができる。しかし、4～6月期見通しが40.0と一気に60ポイント上昇が見込まれているので、従来の動きとは違った良い方向での動きがあることを期待したい。



## DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	1～3 月期 動向	4～6 月期 見通し	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し
全 体	▲20.9	▲11.5	▲7.2	▲10.3	▲34.8	▲27.7
小売業	▲35.0	▲31.3	▲30.0	▲21.1	▲45.0	▲47.4
製造業	▲50.0	0.0	▲25.0	0.0	▲66.7	▲9.1
建設業	33.3	18.2	50.0	25.0	0.0	▲16.7
サービス業	▲22.2	▲16.7	▲15.0	▲30.0	▲20.0	▲22.2
卸売業	▲20.0	▲20.0	20.0	0.0	▲60.0	▲40.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し
全 体	9.0	1.5	▲9.1	▲19.0	▲10.9	▲13.1
小売業	5.0	▲5.0	▲16.7	▲17.6	▲25.0	▲33.3
製造業	9.1	16.7	▲58.3	▲50.0	8.3	0.0
建設業	33.3	9.1	8.3	16.7	▲16.7	▲16.7
サービス業	0.0	0.0	▲5.3	▲10.5	▲15.8	▲5.6
卸売業	0.0	▲20.0	80.0	40.0	20.0	0.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し
全 体	▲4.9	▲6.8	7.7	7.8	3.8	5.9
小売業	▲5.9	▲26.7	▲9.1	▲9.1	▲8.3	▲9.1
製造業	0.0	10.0	18.2	27.3	18.2	27.3
建設業	0.0	▲8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	▲5.9	▲11.8	20.0	14.3	7.1	7.1
卸売業	▲20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## 過去からの動向

